

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03427

研究課題名（和文）隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究

研究課題名（英文）A Transdisciplinary Approach to Phonology

研究代表者

岡崎 正男（Okazaki, Masao）

茨城大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：30233315

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,100,000円

研究成果の概要（和文）：音韻理論の妥当性について、言語理論の各部門からの検証だけではなく、進化学、系統学、病理学、韻律学、神経科学、認知科学などの視点から検証を行い、理論面と現象面の両方で研究成果を挙げた。理論面の研究成果には、進化学や系統学の視点も取り入れた音韻構造の本質の研究や音韻構造からみた言語進化の研究がある。現象面の研究成果には、語の韻律型に基盤をおいた語順類型の研究、詩の韻律構造をもとにした言語の通時変化の研究、発音に困難をともなう音韻障害の音韻論的研究、英語の音節構造の研究、日本語借入語の音韻構造の研究、複合語の韻律型の研究がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、音韻理論の妥当性を、言語理論内部だけではなく、進化学、系統学、病理学、韻律学、神経科学、文字学、認知科学などの視点から、具体的現象をもとにして検証し具体的現象に対する分析を提示するとともに、音韻理論の現代の学術研究における相対的な位置づけを確認できたことである。研究成果の社会的意義は、とりわけ、発音が困難な事例の音韻障害についての分析を提示することにより、当該事例に対する現実的対応方法に資する基礎研究を提示できたことである。

研究成果の概要（英文）：This research project aims at establishing a transdisciplinary approach to phonology. The transdisciplinary approach to phonology is meant to be a novel framework in which the validity of phonological theory is assessed from the points of view of fields other than linguistics, including fields such as evolutionary biology, phylogenetics, pathology, metrics, neuro-sciences, orthographics, cognitive sciences, and so forth, as well as from those of linguistic subfields such as syntax and semantics. The research activities in the years between 2016 and 2022 resulted in publishing papers and books concerning various aspects of phonology. The topics of the publications include the nature of phonological structure, phonological aspects of linguistic evolution, word order typology, phonological changes, phonological disorders, the syllable structure of English, the phonology of Japanese loanwords, the prosody of compounds, and so forth.

研究分野：英語学

キーワード：音韻理論 音韻表示 音韻構造 普遍的制約 認知構造

1. 研究開始当初の背景

音韻論の歴史において、音韻理論は Chomsky and Halle (1968) *The Sound Pattern of English* で提唱された標準理論の提唱により、黎明期の劇的な変貌を遂げた。言語学における科学的な方法論を旨とした生成音韻論の誕生である。これが起爆剤となって 1970 年代には数多の洗練が試みられつつ、1980 年代は原理とパラメーター理論と呼ばれる諸言語を包括した壮大な理論（たとえば、Halle and Vergnaud (1987) *An Essay on Stress*) として円熟期を迎え、最終的には 1990 年代から現在へとつながる最適性理論 (Prince and Smolensky (1993) *Optimality Theory*) へと収束する。諸言語の多様性だけでなく、通時変化（歴史変化）、共時変異（社会的バリエーション）、獲得・習得などを統一的に説明するには、妥当な流れといえるものであった。

しかしながら、こうした音韻理論の発展は、主に言語内の証拠に基づくものであった。つまり、共時的な音韻体系・音韻現象をもとに音韻理論の修正・洗練・拡大を行ってきたのであり、諸言語の通時変化、共時変異、獲得・習得へと理論の適用範囲を広げる際も、あくまで音韻の通時変化、音韻の共時変異、音韻の獲得・習得をその研究対象とし、またこれらを理論のフィードバックとしたのである。いわば、音韻理論のアプリケーション（応用）の研究であって、音韻理論の証拠性の拡大が求められている（内的証拠の拡大の問題）。また、言語内の証拠を拡げて、音韻現象以外の文法現象を音韻理論の修正・洗練に役立てるということは、生成文法の仮説上難しい。というのも、統語論、意味論、音韻論は自律したモジュールとして固有の原理・原則を持つ体系とされ、実際のところ現在では統語論はミニマリストプログラム、意味論は認知言語学、音韻論は最適性理論といった独自の理論から、それぞれの体系が説明される状況となっているからである。その意味で、言語内的な証拠を拡げようとしても、音韻論と統語論や音韻論と意味論との乖離は激しく、内的証拠の拡大は難しい。可能なことといえば、せいぜい各部門のモジュール性を保持したままで、これらの言語内各部門のインターフェイスを研究することである。しかし、これら言語内部門の中身を通じて音韻理論の妥当性を検証することは難しいとされてきた（言語内部門の乖離の問題）。かつて、標準理論から原理とパラメーター理論の頃までは、統語論と音韻論は相互におおむね同じプラットフォームとなる理論に基づいていたのだが、状況が変化してしまった。

2. 研究の目的

研究開始当初の背景で指摘したとおり、現代の音韻理論研究においては、内的証拠の拡大の問題と言語内部門の乖離の問題が依然として存在しており、その 2 つの問題の解決を目指すことが本研究の目的である。

2 つの問題は、言語理論研究の内部に目を向けただけでは解決するのが難しいということは今までの研究で明らかである。それゆえ、2 つの問題の解決のためには、統語理論や意味理論も含めた言語理論内部のみに目を向けるのではなく、隣接諸科学に目を向けて、隣接諸科学も巻き込む必要がある。つまり、隣接諸科学に目を向けて、隣接諸科学も巻き込むことで 2 つの問題を打開することが本研究の目的である。ここで扱う隣接諸科学とは、進化学 (evolutionary biology)、系統学 (phylogenetics)、病理学 (pathology)、韻律学 (metrics)、神経科学 (neuro-sciences)、文字学 (orthographics)、認知科学 (cognitive sciences) などである。これら隣接諸科学の観点から音韻理論の検証を行なうことにより上の 2 つの問題が解決される理由は、(i) 隣接諸科学とはとりもなおさず言語学(文法)を越えた領域であり、自ずと外的証拠から音韻理論を検証することになること、(ii) 本研究で扱う隣接諸科学と統語・意味・形態など言語内部門との横断的研究はすでに進んでおり、隣接諸科学からの音韻理論の検証は言語内他部門の研究成果を自ずと含意するので、言語内部門間の親和性を要求すること、などが挙げられる。つまり、隣接諸科学からの外的証拠をもとに現在の音韻理論を修正・洗練・拡大し、同時に言語内部門間の調和をはかることが、本研究の到達目標であり、期待される成果である。

3. 研究の方法

隣接諸科学にも目を向けて音韻理論の検証を行うために、本研究では、グランディング研究の手法を採用する。グランディング研究とは、一言でいえば、領域乗り入れ型 (transdisciplinary) の方法論である。単なる領域横断型 (interdisciplinary) で、領域間の関係解明や共同作業を行う学際研究とは異なる。音韻理論の妥当性の検証のためにグランディング研究の手法が採用されたことはなく、定義上、新領域の創成を意味する。

音韻理論の証拠付けを求めるグランディング研究により、初めて分野間の関係が収束し、内的証拠の拡大の問題と言語内部門の乖離の問題を同時に解決することができる。本研究の独創性もここにあり、グランディングの発想により、新しい領域の創成、もしくは既存領域の拡大につながる。隣接諸科学という外的証拠からの検証が、言語内他部門からの検証をも含意するからである。すなわち、単に進化音韻論、系統音韻論、病理音韻論、韻律音韻論、神経音韻論、文字

音韻論、認知音韻論の研究を進めるのではなく、統語論・意味論・形態論などの文法の基幹部門を巻き込むことにより、真の意味で進化言語学、系統言語学、病理言語学、韻律言語学、神経言語学、文字言語学、認知言語学の創成もしくは拡大へとつなげることが最終目的である。もちろん、ここまで広く文法の他の基幹部門のみならず隣接諸科学を考慮に入れた、統一かつ包括的な音韻論プロジェクトは例を見ない。

なお、本研究は、音声学から音韻論へのグランディングまたは乗り入れにより、実験音韻論 (Laboratory Phonology) という新領域の創成に成功した状況に似ていると言える。また、社会学から言語学への乗り入れ、心理学から言語学への乗り入れにより、社会言語学や心理言語学が生まれた。これらの分野はすでに確立されつつあり、本研究で扱う隣接領域には音声学、社会学、心理学は含めなかった。

上記の目的を達成するための研究遂行のため、研究組織を(1)統語関連チーム、(2)統語・意味関連チーム、(3)形態関連チームの3つにわけて研究を行い、各年度末に研究の進捗状況を点検する体制とした。

(1)統語関連チームは、田中、時崎、上田の3名である。田中は、チームリーダーを務めつつ、いわゆる進化言語学 (evolutionary linguistics) または生物言語学 (biolinguistics) の進展を見極めつつ、統語論上の仮説を踏まえた上で、音韻理論からこの分野への貢献、および音韻理論のあるべき修正・洗練を行った。時崎は、系統学・類型学の立場から、諸言語の系統関係における音韻類型と統語類型がいかに関連し導かれるかについて、音韻論・統語論を俯瞰した統一文法理論の観点から解明し、音韻理論の検証に帰する。上田は、病理学・障害学の観点から、失語症・失文法症の症例や言語障害学の進展を踏まえた上で、これが音韻理論にどのように還元し得るかを探究する。

(2) 統語・意味関連チームは、岡崎、本間の2名で構成される。岡崎は、研究代表者およびチームリーダーを務めつつ、韻律学・詩学の立場から、統語や意味を含む文法一般が作詩法のどのような原理として存在するか、そしてそれが音韻の原理にどのように関連し意味合いを与えるかを解明することが役割であった。本間は、神経科学・脳科学の立場から、統語や意味を含む文法一般における原理がどのように脳に局在化され検証されるかを踏まえつつ、その手法を音韻にも適用し、その関連と理論的意味合いを明らかにすることが分担内容であった。

(3) 形態関連チームは、西村、田端 (2016年度-2018年度)、太田 (2019年度から) がメンバーである。西村は、チームリーダーを務めつつ、認知科学の成果を踏まえて創出された有力な言語理論 (最適性理論、調和文法、逐次的調和モデル、コネクショニストモデルなど) を比較しつつ、形態現象の観点から経験的な検証を行い、かつ音韻現象の観点から妥当な理論を選別・修正・構築することを目的とした。田端は、言語ごとの文字学、または文字学一般において、形態が果たす役割に関する研究成果を踏まえた上で、文字表記または文字認識においてどのような形態的要因と音韻的要因が存在し、これらが互いにどのように関連しているかを解明することを目的とした。田端は、2018年度末で所属先である千葉大学を退職したため、研究分担者からは離れた。田端が研究分担者からは離れた後、太田が2019年度から研究分担者に加わり、田端の役割分担を引き継いだ。

4. 研究成果

(1) 総論

研究期間 (2016年度から2020年度、繰越期間2021年度) の間に、雑誌論文50件 (うち査読付28件、国際共著1件)、学会発表98件 (うち招待講演21件、国際学会23件)、著書27件 (すべて共著と分担執筆) の研究成果が上がった。

また、2021年3月に研究成果報告書 (ii + 85頁) をCD-ROMの形式で作成した。研究代表者と分担者6名の論文を収録している。

(2) 研究チームごとの研究成果概要

統語関連チームにおいては、まず、田中により、音韻構造構築の本質に関する論考、進化学との関連においてミニマリスト音韻論の提唱、統語構造構築と音韻構造構築の統合などについて論考が着実に発表された。時崎は、系統学との関連で、音韻構造 (特に語強勢型など) と語順型の対応関係についての論考を中心に発表し、音韻構造をもとにした言語類型論の姿が着実に明らかになりつつある。上田は、病理学との関連で、発音障害の事実を整理し、その実態を音韻論的に解明する論考を発表した。

統語・意味関連チームにおいては、岡崎により、韻律学との関連で、中英語から近代英語期までの詩の韻律の再分析を基礎として、後期中英語の形容詞の二重強勢語はその存在した証拠が乏しいこと、英語のリズム規則は近代英語期から存在し現代英語のよりも適用範囲が広いが原因は副次強勢の分布の違いに帰すことができること、などが明らかにされた。また、本間により、ことば遊びの背後にある音韻論的規則性、英語の語内の音素配列と音節構造の背後にある規則性などについての論考が発表された。特に英語の語の音節構造については子音配列との関連で

独自の音節体系が提示された。

形態関連チームにおいては、まず、西村が、文字学も含めた総合的視点から、日本語の借用語の子音の有声化について、現行の最適性理論の枠組みの音韻分析の妥当性を検証し代案を提示した。田端は、分担の文字表記と形態構造に関連して、日本語の複合語、わけでも複合動詞と転成名詞、の韻律型についての論考を発表した。太田は、田端の研究分担を引き継ぎ、複合名の韻律型についての論考を発表し、複合語の韻律型には統語論における必須概念である c-統御により説明できる事実が広範囲に存在することを明らかにした。

(3) その他

直接の研究成果とはいえないが、本研究の直接経費で国内と海外の研究者を講演者として招聘し、研究成果を発表してもらい、さまざまテーマと研究方法についての情報とともに知見を広げることができた。講演者の研究内容は、本研究課題の研究のための土台の一部となっている。最後に招聘講演者の氏名と所属を年度ごとに記す。

2016 年度：李鳳炯（大韓民国、大田大学校教授）、徐長局（大韓民国、白石大学校教授）、Stuart Davis（アメリカ合衆国、インディアナ大学教授）、小川晋史（熊本県立大学准教授）、小野浩司（佐賀大学教授）

2017 年度：安英蘭（大韓民国、KC 大学校准教授）、柳恵倍（大韓民国、仁川大学校教授）、Bezarel E. Drescher（カナダ、ロント大学名誉教授）、Keren Rice（カナダ、トロント大学教授）

2018 年度：趙惠仙（大韓民国、壇国大学校助教授）、呉恩恵（大韓民国、建国大学校副教授）、Tobias Scheer（フランス共和国、ニース大学教授）、Christian Uffmann（ドイツ連邦共和国、ハインリッヒハイネ大学講師）、玉岡賀津雄（名古屋大学人文学研究科教授）、田中真一（神戸大学人文学研究科教授）

2019 年度：John Alderete（カナダ、サイモンフレーザー大学教授）、Hynsong Chun（大韓民国、国立教育大学校教授）、Gwanhi Yun（大韓民国、大邱大学校教授）、時崎久夫（研究分担者）（札幌大学教授）、平山真奈美（成蹊大学文学部准教授）、那須昭夫（筑波大学人文社会系准教授）、高山知明（金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系教授）

2020 年度：Minji Kan（大韓民国延世大学校大学院生）、Yang Hwang（大韓民国全州大学校准教授）、Bryan Glick（カナダプリテッシュコロンビア大学教授）

2021 年度（繰越期間）：田中雄（同志社大学助教）、熊谷学而（関西大学准教授）、橋本大樹（上越教育大学助教）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計50件（うち査読付論文 28件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Masao Okazaki	4. 巻 40
2. 論文標題 The Metrical Significance of Old English Unstressed Prefixes in Alliterative Verse	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tsukuba English Studies	6. 最初と最後の頁 205-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nasukawa, Kuniya, Shin-ichi Tanaka, Phillip Backley, and Hitomi Onuma	4. 巻 2019年度版
2. 論文標題 統語構造構築と音韻構造構築の統一的接近法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Evolinguistics: Integrative Studies of Language Evolution for Co-Creative Communication, A Report of the MEXT Grant-in-Aid for Scientific Research 2019 on Innovative Areas.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田中伸一	4. 巻 2020年度
2. 論文標題 エレメント理論の説明的・進化的妥当性：弁別素性理論との比較検証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Evolinguistics: Integrative Studies of Language Evolution for Co-Creative Communication, A Report of the MEXT Grant-in-Aid for Scientific Research 2020 on Innovative Areas (電子出版)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Alderete, John, Queenie Chang, and Shin-ichi Tanaka	4. 巻 161
2. 論文標題 The Morphology of Cantonese "Changed Tone": Extensions and Limitations	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語研究	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin-ichi Tanaka	4. 巻 25
2. 論文標題 Vowel Coalescence as Head-Dependent Merge	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 77-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ueda, Isao and Barbara Mayernhardt	4. 巻 34
2. 論文標題 A Japanese 4-year-old with protracted phonological development: the challenge of coronals	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Clinical Linguistics & Phonetics	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02699206.2022.2029944	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 2020年版
2. 論文標題 Verb-Second and Initial-Weak Prosody	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 10th International Conference on Speech Prosody 2020	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21437/SpeechProsody.2020-76	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 2020年版
2. 論文標題 Externalization and morphosyntactic parameters in Basque	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Fontes Linguae Vasconum 50 urte. Ekarpen berriak euskararen ikerketari/Nuevas aportaciones al estudio de la lengua vasca [New contributions to the study of Basque language]	6. 最初と最後の頁 547-560
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.35462/fontes50urte.35	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 時崎久夫	4. 巻 6
2. 論文標題 なぜ英語は主語と助動詞を倒置するのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道英語英文学	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20759/elsjregional.14.0_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 25
2. 論文標題 Parameters in phonology and morphosyntax	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 7
2. 論文標題 Stress and pitch accent in Japanese word prosody	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyashita, Harumasa and Hisao Tokizaki	4. 巻 7
2. 論文標題 Borrowing, stress shift and word order change in the history of English	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 59-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 時崎久夫	4. 巻 -
2. 論文標題 言語の種類とリズム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 札幌大学公開講座講演集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡崎正男	4. 巻 2021年版
2. 論文標題 回顧と展望：音声学・音韻論の研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 英語年鑑	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中伸一	4. 巻 2018年版
2. 論文標題 ミニマリスト音韻論の概要 進化言語学における音韻論 の性質と役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Evolinguistics: Integrative Studies of Language Evolution for Co-Creative Communication, A Report of the MEXT Grant-in-Aid for Scientific Research 2018 on Innovative Areas. (電子出版)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中伸一	4. 巻 2019年版
2. 論文標題 音韻構造の曖昧性と階層構造：語内部のカテゴリー形成と併合	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Evolinguistics: Integrative Studies of Language Evolution for Co-Creative Communication, A Report of the MEXT Grant-in-Aid for Scientific Research 2019 on Innovative Areas (電子出版)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中伸一	4. 巻 2020年版
2. 論文標題 音韻における構造的曖昧性：階層構造と内在化の証拠として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Evolinguistics: Integrative Studies of Language Evolution for Co-Creative Communication, A Report of the MEXT Grant-in-Aid for Scientific Research 2020 on Innovative Areas (電子出版)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shino Sakono and Isao Ueda	4. 巻 3
2. 論文標題 Characteristics of Japanese children's word accent assignment when reading	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2019	6. 最初と最後の頁 108-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ozaki Sachiko and Ueda Isao	4. 巻 16
2. 論文標題 The effects of digital scaffolding on adolescent English reading in Japan: An experimental study on visual-syntactic text formatting	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JALT CALL Journal	6. 最初と最後の頁 147-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 5
2. 論文標題 Is the mapping to PHON complex?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hitsao Tokizaki	4. 巻 2020年度版
2. 論文標題 Verb-Second and Initial-Weak Prosody	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 10th International Conference on Speech Prosody 2020	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21437/SpeechProsody.2020-76	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 2020年版
2. 論文標題 Externalization and morphosyntactic parameters in Basque	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Fontes Linguae Vasconum 50 urte. Ekarpen berriak euskararen ikerketari/Nuevas aportaciones al estudio de la lengua vasca [New contributions to the study of Basque language]	6. 最初と最後の頁 547-560
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.35462/fontes50urte.35	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田聡	4. 巻 22
2. 論文標題 複合名詞のアクセントとc統御	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Ohta	4. 巻 55
2. 論文標題 Review of Laurie Bauer, Compounds and Compounding	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英語と英米文学	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tokizaki, Hisao	4. 巻 English Number 2019
2. 論文標題 Review of Phonological Typology by Matthew K. Gordon	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in English Literature	6. 最初と最後の頁 91-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tokizaki, Hisao	4. 巻 4
2. 論文標題 Word-Stress Location and the Order of Subject and Verb: Preliminary Data Analysis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Phonologica Externalization	6. 最初と最後の頁 105-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本間猛	4. 巻 515
2. 論文標題 形式音韻論と英語の音節構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 41 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田聡	4. 巻 53
2. 論文標題 英語の大母音推移について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 英語と英米文学	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masao Okazaki	4. 巻 34
2. 論文標題 Review: Gjertrud Flermoen Strenbrenden, Long Vowel Shifts in English, c. 1050-1700: Evidence from Spelling, Cambridge University Press, 2016.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近代英語研究	6. 最初と最後の頁 81-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡崎正男	4. 巻 5
2. 論文標題 ディキンソンのメタファーの個性と普遍性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Emily Dickinson Review	6. 最初と最後の頁 44-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin-ichi Tanaka	4. 巻 21
2. 論文標題 Prolegomena: Why Now is the Time to Do Phonetics/Phonology in Evolutionary Linguistics	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 音声研究	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin-ichi Tanaka	4. 巻 21
2. 論文標題 The Shape and Function of Phonology in Evolutionary Linguistics: Why We can Explore Language Origin from Extant Languages, and How	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 音声研究	6. 最初と最後の頁 88-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田功	4. 巻 20
2. 論文標題 音韻理論と音韻事象	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 131 136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shino Sakono, Tomohiko Ito and Ueda Isao	4. 巻 5
2. 論文標題 Word Accent Repetition in Japanese Children with Reading Difficulties	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Special Education Research	6. 最初と最後の頁 49 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田功	4. 巻 1
2. 論文標題 大学院生対象の英語教育「超域イノベーション・プログラム」における実践例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 279-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 21
2. 論文標題 Prosody and Branching Direction of Phrasal Compounds	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the Annual Meeting of Linguistic Society of America. Volume 2	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 37
2. 論文標題 Righthand Head Rule and the Typology of Word Stress	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 KLS	6. 最初と最後の頁 253-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 32
2. 論文標題 Externalization, Stress and Word Order	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 上智大学言語学会報	6. 最初と最後の頁 18-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 3
2. 論文標題 Obligatory Contour Principle and Minimalist Syntax	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jiro Inaba and Hisao Tokizaki	4. 巻 3
2. 論文標題 Head Parameters and Word Stress in German	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 85-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohei Nishimura	4. 巻 35
2. 論文標題 Phonological Optionality in Japanese Loanwords	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JELS	6. 最初と最後の頁 110-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田端敏幸	4. 巻 20
2. 論文標題 日本語複合動詞とその転成名詞のアクセント	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 137-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中伸一	4. 巻 20
2. 論文標題 音韻研究の昔と今：20周年シンポジウム報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 121-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rei Yasuda and Isao Ueda	4. 巻 15/16
2. 論文標題 The Acquisition of English Intonation by Japanese Elementary Learners	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Philologia	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shino Sakono, Tomohiko Ito, and Isao Ueda	4. 巻 5
2. 論文標題 Word Accent Repetition in Japanese Children with Reading Difficulties	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Special Education Research	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田功	4. 巻 20
2. 論文標題 音韻理論と音韻事象	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 131-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 33
2. 論文標題 Prominence and Structure of Compounds	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 English Linguistics	6. 最初と最後の頁 119-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下治正、時崎久夫	4. 巻 34
2. 論文標題 Ancrene Wissenにおける本動詞と目的語の相対的語順と借入語	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JELS	6. 最初と最後の頁 98-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki and Jiro Inaba	4. 巻 2
2. 論文標題 Word Order and Prosody in the Adnominal Modification Structures	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 45-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Tokizaki	4. 巻 2
2. 論文標題 Historical Changes of Word Order and Stress: An Introduction	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 83-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計98件 (うち招待講演 21件 / うち国際学会 23件)

1. 発表者名 岡崎正男
2. 発表標題 近代英詩のテキストセッティング：詩人間の共通性と詩人ごとの独自性
3. 学会等名 PAIK (Phonological Association in Kansai) 2021年7月例会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 音韻における構造的曖昧性：階層構造と内在化の証拠として
3. 学会等名 The General meeting of the MEXT Grant-in-Aid Evolving Linguistics: Integrative Studies of Language Evolution for Co-Creative Communication on August 20, 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 素性がエLEMENTか：母音融合の理論的・経験的再再検証
3. 学会等名 日本音韻論学会春期研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 音韻論から見た言語の起源と進化
3. 学会等名 The General meeting of the MEXT Grant-in-Aid Evolving Linguistics: Integrative Studies of Language Evolution for Co-Creative Communication on February 24, 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Verb-second and initial-weak prosody
3. 学会等名 The 10th International Conference on Speech Prosody (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 WALSを用いた言語類型論研究
3. 学会等名 言語変化・変異研究ユニット チュートリアル
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 音韻論における語と句
3. 学会等名 理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求：2021年度第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Parameters in phonology and morphosyntax
3. 学会等名 音韻論フォーラム2021（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 音韻部門で要素は移動するか
3. 学会等名 日本英語学会 第39回大会 特別講演（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 言語地図と言語理論：Linguistic Atlas of Asia と WALS
3. 学会等名 理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求：2021年度第5回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Prosody and the Linearization of Verbs and Adverbs
3. 学会等名 The 12th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西村康平
2. 発表標題 「常用漢字」漢語の音韻構造
3. 学会等名 音韻論フェスタ2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田聡
2. 発表標題 いわゆる頭文字略語についての小論
3. 学会等名 山口大学英語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 On the Three Geneses of Syllable Structure: A Perspective from Minimalist Phonology
3. 学会等名 東北学院大学 英語英文学研究所 定例公開講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 Structural Ambiguity Below the Word: The Origins of Phonological Hierarchy through Category Formation
3. 学会等名 東京音韻論研究会 2 月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 音韻文法の構築をめぐる3つの問題 音韻論の基本から最先端のトピックへ
3. 学会等名 福岡大学大学院英語学英米文学専攻講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kohei Nishimura
2. 発表標題 The Paradox between Phonological Variety & Optionality
3. 学会等名 6th NINJAL International Conference on Phonetics and Phonology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Sakono and Isao Ueda
2. 発表標題 Characteristics of Japanese children 's word accent assignment when reading
3. 学会等名 The Third International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 迫野詩乃・上田功
2. 発表標題 読み障害成人例の社会生活における困難およびその対応や支援について
3. 学会等名 第57回日本特殊教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Head parameter and the prosody in Chinese
3. 学会等名 Parameter Workshop in Honour of Lisa Travis
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 主要部末尾言語の音韻論: 語順と語強勢の相関
3. 学会等名 東京音韻論研究会 7 月例会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Order of subject and verb and word-stress location
3. 学会等名 Association for Linguistic Typology (第13回) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 統語構造から音韻への写像は複雑か
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異ワークショップ（第9回）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Prosody and morphosyntax in Basque and Japanese
3. 学会等名 NINJAL ICPP2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Strong vs. weak: relational prominence in Externalization
3. 学会等名 Workshop: Relational properties in phonology（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Verb-second and Externalization
3. 学会等名 Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Verb-second and initial-weak prosody
3. 学会等名 The 10th International Conference on Speech Prosody (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 WALSを用いた言語類型論研究
3. 学会等名 言語変化・変異研究ユニット チュートリアル
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 なぜ英語は主語と助動詞を倒置するのか
3. 学会等名 日本英文学会北海道支部大会 セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Subject-auxiliary inversion is inversion.
3. 学会等名 The 11th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本間猛
2. 発表標題 英語の音素配列論と音韻論的思考法
3. 学会等名 上智大学音声学研究室講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡崎正男
2. 発表標題 Emily Dickinson の詩形の個別性と一般性
3. 学会等名 大塚英語教育研究会12月例会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanaka, Shin-ichi
2. 発表標題 Testing Hypotheses on Syllable Typology from the Viewpoint of Language Origins: A Solution to 'the Paradox of the Two Poverties'
3. 学会等名 The 29th Meeting of the Circle for Thinking about Language
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanaka, Shin-ichi and John Alderete
2. 発表標題 Opacity in the Interaction of Pinjam and Tone Sandhi: Some Implications for Cantonese Tonal Phonology
3. 学会等名 東京音韻論研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanaka, Shin-ichi
2. 発表標題 From Substance to Computation: The Role and Nature of Phonology in Evo-Linguistics
3. 学会等名 東京音韻論研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka, Shin-ichi
2. 発表標題 An Overview of Minimalist Phonology: The Role and Nature of Phonology in Evo-Linguistics
3. 学会等名 The 3rd General Meeting of the MEXT Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas Evolving Linguistics: Integrative Studies of Language Evolution for Co-Creative Communication
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村康平
2. 発表標題 外来語における音韻多様性と変異可能性の相反関係
3. 学会等名 東京音韻論研究会10月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村康平
2. 発表標題 The Paradox between Phonological Variety and Optionality
3. 学会等名 第14回音韻論フェスタ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 迫野詩乃・上田 功
2. 発表標題 読み障害成人1例における音韻的側面の特徴
3. 学会等名 日本コミュニケーション障害学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 迫野詩乃・上田 功
2. 発表標題 読み障害成人1例における読みに及ぼす語の音韻構造の影響 - 音節量、音節・モーラ、フットに着目して -
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ueda, Isao and Kaori Idemaru
2. 発表標題 Development of the Japanese Liquid: An Acoustic Analysis
3. 学会等名 The 17th International Clinical Phonetics and Linguistics Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Japanese Accent in Word-Prosodic Typology
3. 学会等名 NAPhCX (Tenth North American Phonology Conference) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Alliteration and the Holistic Typology of Japanese
3. 学会等名 LACUS 2018 (Linguistic Association of Canada and the United States) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Prosody and the Position of Subject
3. 学会等名 Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Is Korean Stress Word-Level or Phrase-Level?
3. 学会等名 NINJAL ICPP 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 併合はどこから始まるのか：強勢と境界
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第8回ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 バスク語の韻律と形態統語論
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第8回ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tokizaki, Hisao
2. 発表標題 Externalization and Morphosyntactic Parameters in Basque
3. 学会等名 FLV, 50 years: New methods and Trends in (Basque) Linguistics International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本間猛
2. 発表標題 言葉遊びの音韻論
3. 学会等名 東京音韻論研究会2月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡崎正男
2. 発表標題 英語音韻史のなかの「リズム規則」
3. 学会等名 第11回奈良女子大学文学部欧米文化学講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2 . 発表標題 Constraints for Motivating the Changed Tone in Cantonese
3 . 学会等名 Phonology and Cognition Lab, Department of Linguistics, Simon Fraser University, Canada
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2 . 発表標題 More on Dispensing with the Register Node for the Analysis of the Changed Tones
3 . 学会等名 Phonology and Cognition Lab, Department of Linguistics, Simon Fraser University, Canada
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2 . 発表標題 More on an MTD-(1)-Based Analysis of Basic and Exceptional Cases in the Changed Tones
3 . 学会等名 Phonology and Cognition Lab, Department of Linguistics, Simon Fraser University, Canada
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2 . 発表標題 More on the Three Ways of Affixation in the Changed Tone
3 . 学会等名 Phonology and Cognition Lab, Department of Linguistics, Simon Fraser University, Canada
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 The Form and Function of the Changed Tone Morpheme in the Simplex and Complex Words
3. 学会等名 Phonology and Cognition Lab, Department of Linguistics, Simon Fraser University, Canada
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 More on Headedness and Tone Change in Compound and Reduplication
3. 学会等名 Phonology and Cognition Lab, Department of Linguistics, Simon Fraser University, Canada
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 An Integrated Account of the Three Types of Diachronic Change in Pinjam
3. 学会等名 Phonology and Cognition Lab, Department of Linguistics, Simon Fraser University, Canada
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 Modeling the Three Types of Diachronic Change in Pinjam in Optimality Theory
3. 学会等名 Phonology and Cognition Lab, Department of Linguistics, Simon Fraser University, Canada
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 Opacity in the Interaction of Pinjam and Tone Sandhi: Some Implications for Cantonese Tonal Phonology
3. 学会等名 Phonology and Cognition Lab, Department of Linguistics, Simon Fraser University, Canada
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 音韻知識と音声コミュニケーションの進化
3. 学会等名 新学術領域研究「共創言語進化」A01班会議
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka, John Alderete, and Queenie Chan
2. 発表標題 The Synchronic Variation and Diachronic Change of Pinjam in Cantonese: Modeling its 'Unity in Variety' with OT
3. 学会等名 東京音韻論研究会12月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 進化言語学から見た音節類型論：ダーウィンの問題と有標性の問題を乗り越えて
3. 学会等名 新学術「共創言語進化」A01班会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 Rethinking Syllable Typology from the Perspective of Evolving Linguistics: From Universal Constraints to Interface Conditions
3. 学会等名 Tokyo Conference on Evolving Linguistics: Where Does Phonology Fit In? (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 諸言語の音節類型の進化言語学的起源：言語起源をめぐる仮説の類型的検証
3. 学会等名 新学術「共創言語進化」第1回領域全体会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 アルタイ諸語の韻律と語順
3. 学会等名 第84回札幌学院大学言語学談話会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Harumasa Miyashita and Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Word Order Change, Stress Shift and Old French Loanwords in Middle English
3. 学会等名 La 5eme Edition du Colloque International Biannuel de Diachronie de l'Anglais (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 Externalization and Word Order: Variables and Universals
3. 学会等名 上智大学言語学会32回大会 ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Deriving Word Order Universals from Phonology
3. 学会等名 Workshop: Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲葉治朗・時崎久夫
2. 発表標題 ドイツ語の主要部パラメーターと語強勢
3. 学会等名 日本独文学会 秋季研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Variation of Stress Location and Word Order in Prenominal Adjective Phrases
3. 学会等名 Workshop on Linguistic Variation at the Interfaces (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 回帰的併合と強勢
3. 学会等名 日本言語学会第155回大会 ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲葉治朗・時崎久夫
2. 発表標題 韻律から見たドイツ語の語順
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異 第6回ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Harumasa Miyashita and Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Borrowing, Stress Shift and Word Order Change in the History of English
3. 学会等名 SLIN (Storia della Lingua Inglese) 18 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本間猛
2. 発表標題 ことばにある音のきまり
3. 学会等名 首都大学東京 言語科学教室 第3回 発達脳フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kohei Nishimura
2. 発表標題 Denasalization of Moraic Nasals in Sino-Japanese
3. 学会等名 The 25th Japanese/Korean Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村康平
2. 発表標題 Phonological Optionality in Japanese Loanwords
3. 学会等名 日本英語学会第35回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡崎正男
2. 発表標題 ディキンソンのメタファーの個別性と普遍性
3. 学会等名 日本エミリィ・ディキンソン学会第32大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡崎正男
2. 発表標題 英語の句レベルでの「強勢移動」 通時的考察
3. 学会等名 近代英語協会第34回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中伸一
2. 発表標題 日英比較音韻論：言語音の文法とは
3. 学会等名 順天堂大学国際教養学部英語学講演会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 An Overview of Turbid OT: A Constraint-Based Solution to Opacity Problems
3. 学会等名 Vancouver Phonology Meeting
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shin-ichi Tanaka
2. 発表標題 The Shape and Function of Phonology in Evolutionary Linguistics: Why We can Explore Language Origin from Extant Languages, and How
3. 学会等名 Linguistics Colloquium, Department of Linguistics, Simon Fraser University（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫野詩野、上田功、伊藤友彦
2. 発表標題 幼児における非語の読み誤りの変化 韻律的側面に着目して
3. 学会等名 日本コミュニケーション障害学会第42大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Rei Yasuda and Isao Ueda
2. 発表標題 Voicing and Devoicing of Final Stop Target in Similar German and English Word Parts by Native Speakers of Japanese: A Case Study of L3 Phonological Acquisition
3. 学会等名 New Sounds 2016: 8th International Conference on Second-Language Speech (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上田功
2. 発表標題 イントネーション習得の諸相---音韻、統語、語用の交差するところ
3. 学会等名 日本英語学会第34回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Stress and Word Order in English and Korean
3. 学会等名 2016 International Joint Conference of English Linguistic Society of Korea and Korea Society of Language and Information (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 右側主要部規則と語強勢の類型論
3. 学会等名 関西言語学会第41回大会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 統語と音韻における非対称性
3. 学会等名 九州大学英語学研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 語順の普遍性と音韻論
3. 学会等名 福岡言語学研究会2016年度第2回例会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Recursive Strong Assignment from Phonology to Syntax
3. 学会等名 Workshop: Recursion in Phonology
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫
2. 発表標題 語順と語強勢の歴史的変化
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍性と差異第3回ワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮下治正、時崎久夫
2. 発表標題 Ancrene Wisselにおける本動詞と目的語の相対的語順と借入語
3. 学会等名 日本英語学会第34回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時崎久夫、稲葉治朗
2. 発表標題 名詞修飾の語順と音韻
3. 学会等名 日本言語学会第153回ワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki
2. 発表標題 Prominence and branching Direction of Phrasal Compounds
3. 学会等名 2017 Annual Meeting of the Linguistic Society of America (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 時崎久夫、稲葉治朗
2. 発表標題 名詞前位修飾と音韻制約
3. 学会等名 形態統語構造の音韻的外在化：普遍的差異第4回ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hisao Tokizaki and Jiro Inaba
2. 発表標題 Prenominal Modification and Phonological Constraints
3. 学会等名 The 39th Annual Conference of the German Linguistic Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村康平
2. 発表標題 外来語における双方向の有声性変質
3. 学会等名 日本言語学会第152回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西村康平
2. 発表標題 外来語における有声性変質と入力-出力関係
3. 学会等名 東京音韻論研究会9月例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西村康平
2. 発表標題 Loanword Voicing Optionality in CSJ
3. 学会等名 第12回音韻論フェスタ
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計27件

1. 著者名 岡崎正男、島越郎（編・著）、富澤直人（編・著）、小川芳樹（編・著）、土橋善仁（編・著）、佐藤陽介（編・著）、ルプシャ コルネリア（編・著）、遠藤喜雄、大室剛志、岡崎正男、鈴木達也、田中智之、西岡宣明、松本マスミ、朝香俊彦、荒野章彦、石井康男、内田恵、菅野悟、北田伸一、小島さつき、他14名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 392
3. 書名 ことばの様相 - 現在と未来をつなぐー	
1. 著者名 岡崎正男、時崎久夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 244
3. 書名 音韻論と他の部門とのインターフェイス	
1. 著者名 田中伸一、杉崎鉦司（編・著）、稲田俊一郎（編・著）、磯部美和（編・著）、大津由紀雄、今西典子、田中伸一、長野明子、石原由貴、小野将之、滝田健介、猪熊作巳、瀬楽亨、塩原佳世乃、中尾千鶴、郷路拓也、平川真規子、宮下治政、尾島司郎、池内正幸、照沼阿貴子、他6名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 357
3. 書名 言語研究の世界 生成文法からのアプローチ	
1. 著者名 田中伸一、田中智之（編・著）、茨木正志郎（編・著）、松元洋介（編・著）、杉浦克哉（編・著）、玉田貴裕（編・著）、近藤亮一（編・著）、金子義明、阿部潤、滝沢直宏、田中伸一、吉田幸治、西脇幸太、石崎保明、内田脩平、樽木勇作、夏思洋、笠井俊宏、久米祐介、小池晃次、小林亮哉、他15名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 448
3. 書名 言語の本質を共時的・通時的に探る 大室剛志先生退職記念論文集ー	

1. 著者名 上田功、都田青子（編・著）、田中真一（編・著）、大沢ふよう、八木斉子、上田功、原恵子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 214
3. 書名 音声学・音韻論と言語学諸分野とのインターフェイス	

1. 著者名 時崎久夫、西原哲雄（編・著）、島田雅晴、時崎久夫、由本陽子、西山國雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 212
3. 書名 形態論と言語学諸分野とのインターフェイス	

1. 著者名 時崎久夫、岡崎正男	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 244
3. 書名 音韻論と他の部門とのインターフェイス	

1. 著者名 時崎久夫、西原哲雄（編・著）、都田青子（編・著）、中村浩一郎（編・著）、米倉よう子（編・著）、小野隆啓、岸本秀樹、佐野まさき、田中真一、六川雅彦、山根典子、澤田治、吉成祐子、江口清子、長野明子、島田雅晴、西山國雄、菅原彩加、宮本陽一、深澤はるか、他3名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 304
3. 書名 言語におけるインターフェイス	

1. 著者名 Hisao Tokizaki, Kuniya Nasukawa, Phillip Backley, Edoardo Cavirani, Marc van Oostendorp, Marcel den Dikken, Harry van der Hulst, Chihkai Lin, Xiaoxi Liu, Nancy C. Kula, Filiz Mutlu, Hitomi Onuma, Clemens Poppe, Geoffrey Schwartz, Ali Tifrit	4. 発行年 2020年
2. 出版社 de Gruyter Mouton	5. 総ページ数 415
3. 書名 Morpheme-internal recursion in phonology	

1. 著者名 Harumasa Miyashita and Hisao Tokizaki, Fabienne Toupin, Sylvain Gatelais, Ileana Sasu, Raffaella Baechler, Fuyo Osawa, Yana Chankova	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Cambridge Scholars Publishing	5. 総ページ数 193
3. 書名 Studies in Linguistic Variation and Change 3: Corpus-based Research in English Syntax and Lexis	

1. 著者名 Hisao Tokizaki and Toshio Inaba, Gerrit Kentner, Joost Kremers, Arto Anttila, Timothy Dozat, Daniel Galbraith, Naomi Shapiro, Tina Bogel, Miriam Butt, Farhat Jabeen, Katy Carlson, Marta Wierzba, Johannes Heim, Martina Wiltschko, E. Jamieson, Volker Struckmeie, Joost Kremers	4. 発行年 2020年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 334
3. 書名 Prosody in Syntactic Encoding	

1. 著者名 田中伸一、遊佐典明（編・著）、杉崎鉦司、小野創、藤田耕司、池内正幸、谷明信、尾崎久男、米倉綽	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 364
3. 書名 言語の獲得、進化、変化 心理言語学、進化的言語学、歴史言語学	

1. 著者名 Hisao Tokizaki, Rob Goedemans, Jeff Heinz, Harry van der Hulst, Larry Hyman, Haruo Kubozono, Vincent J. van Heuven, Anya Lunden, Natalia Kuznetsova, Violeta Martinez-Paricio, Rene Kager, Keren Rice, Iggy Roca, Marc van Oostendorp, Bjorn Kohnlein, Nicholas Rolle, Marine Vuillermet, Alexandre Vaxman	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 430
3. 書名 The Study of Word Stress and Accent: Theories, Methods and Data	

1. 著者名 岡崎正男、加賀信弘（編・著）・大橋一人（編・著）、草山学、石川陽子、田中秀毅、前原由幸、土居耕三、本間伸輔、中村その子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 308
3. 書名 授業力アップのための一歩進んだ英文法（英語教師力アップシリーズ）	

1. 著者名 岡崎正男、服部義弘（編・著）、児馬修（編・著）、堀田隆一、輿石哲哉、保坂道雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 200
3. 書名 歴史言語学（朝倉日英対照言語学シリーズ [発展編] 3）	

1. 著者名 上田功、西岡宣明（編・著）、福田実（編・著）、松瀬憲司（編・著）、長谷信夫（編・著）、緒方隆文（編・著）、橋本美喜男（編・著）、大室剛志、Hiroko Sato, 越水雄二、阿部幸一、一瀬陽子、團迫雅彦、木戸康人、Yusaku Oteki、加藤正治、Norio Suzuki、太田聡、小野浩司、他35名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 448
3. 書名 ことばを編む	

1. 著者名 岡崎正男、植田尚樹、窪園晴夫、清水克正、白石英才、橋本文子、福島彰利、ホッパ、クレムス、山本武史、渡部直也、安藤智子、伊関敏之、大塚恵子、桑本裕二、佐藤久美子、柴田知薫子、田中真一、服部範子、黄竹佑、増田正彦、他36名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 232
3. 書名 現代音韻論の動向	

1. 著者名 田端敏幸、植田尚樹、窪園晴夫、清水克正、白石英才、橋本文子、福島彰利、ホッパ、クレムス、山本武史、渡部直也、安藤智子、伊関敏之、大塚恵子、桑本裕二、佐藤久美子、柴田知薫子、田中真一、服部範子、黄竹佑、増田正彦、他36名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 232
3. 書名 現代音韻論の動向	

1. 著者名 田端敏幸、田中真一(編・著)、ピンテール・ガーボル(編・著)、小川晋史(編・著)、儀利古幹雄(編・著)、竹安大(編・著)、Shin-ichi Tanaka, Clemens Poppe, and Daiki Hashimoto、高山知明、太田聡、本間猛、北原真冬、山本武史、吉田優子、那須昭夫、松井理直、竹村亜希子、Izumi Takiguchi、他10名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 364
3. 書名 音韻研究の新展開：窪園晴夫教授還暦記念論文集	

1. 著者名 田中伸一、植田尚樹、窪園晴夫、清水克正、白石英才、橋本文子、福島彰利、ホッパ、クレムス、山本武史、渡部直也、安藤智子、伊関敏之、大塚恵子、桑本裕二、佐藤久美子、柴田知薫子、田中真一、服部範子、黄竹佑、増田正彦、他36名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 232
3. 書名 現代音韻論の動向	

1. 著者名 Shin-ichi Tanaka, Clemens Poppe, and Daiki Hashimoto、田中真一(編・著)、ピンテール・ガーボル(編・著)、小川晋史(編・著)、儀利古幹雄(編・著)、竹安大(編・著)、高山知明、太田聡、本間猛、北原真冬、山本武史、吉田優子、那須昭夫、松井理直、竹村亜希子、Izumi Takiguchi、他10名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 364
3. 書名 音韻研究の新展開：窪園晴夫教授還暦記念論文集	

1. 著者名 上田功、植田尚樹、窪園晴夫、清水克正、白石英才、橋本文子、福島彰利、ホッパ、ケムス、山本武史、渡部直也、安藤智子、伊関敏之、大塚恵子、桑本裕二、佐藤久美子、柴田知薫子、田中真一、服部範子、黄竹佑、増田正彦、他36名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 232
3. 書名 現代音韻論の動向	

1. 著者名 上田功、田中真一(編・著)、ピンテール・ガーボル(編・著)、小川晋史(編・著)、儀利古幹雄(編・著)、竹安大(編・著)、Shin-ichi Tanaka, Clemens Poppe, and Daiki Hashimoto、高山知明、太田聡、本間猛、北原真冬、山本武史、吉田優子、那須昭夫、松井理直、竹村亜希子、Izumi Takiguchi、他10名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 364
3. 書名 音韻研究の新展開：窪園晴夫教授還暦記念論文集	

1. 著者名 時崎久夫、植田尚樹、窪園晴夫、清水克正、白石英才、橋本文子、福島彰利、ホッパ、ケムス、山本武史、渡部直也、安藤智子、伊関敏之、大塚恵子、桑本裕二、佐藤久美子、柴田知薫子、田中真一、服部範子、黄竹佑、増田正彦、他36名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 232
3. 書名 現代音韻論の動向	

1. 著者名 本間猛、高見健一（編・著）、行田勇（編・著）、大野英樹（編・著）、鷺尾龍一、奥田博子、浜口稔、小野尚之、瀬田幸人、松本マスミ、水野謙二、河野武、野村美由紀、漆原朗子、北川千里、伊藤たかね、薬袋詩子、根本貴行、毛束真知子、山腰京子、他30名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 252
3. 書名 <不思議>に満ちたことばの世界（上）	

1. 著者名 本間猛、田中真一（編・著）、ピンテール・ガーボル（編・著）、小川晋史（編・著）、儀利古幹雄（編・著）、竹安大（編・著）、Shin-ichi Tanaka, Clemens Poppe, and Daiki Hashimoto、高山知明、太田聡、本間猛、北原真冬、山本武史、吉田優子、那須昭夫、松井理直、竹村亜希子、Izumi Takiguchi、他10名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 364
3. 書名 音韻研究の新展開：窪園晴夫教授還暦記念論文集	

1. 著者名 西村康平、植田尚樹、窪園晴夫、清水克正、白石英才、橋本文子、福島彰利、ホップ、ケニス、山本武史、渡部直也、安藤智子、伊関敏之、大塚恵子、桑本裕二、佐藤久美子、柴田知薫子、田中真一、服部範子、黄竹佑、増田正彦、他36名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 232
3. 書名 現代音韻論の動向	

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究成果報告書（2021年3月、CD-ROM版、ii+85頁）Isao Ueda and Kaori Idemaru "Non-rule-governed rhotic acquisition: A case study in Japanese" (1-6)、太田聡「短縮語の形成に関する一考察」(7-20)、岡崎正男「後期中英語語強勢研究の課題」(21-36)、田中伸一「不透明性と音韻文法の構築 直列調和モデルから濁りの表示モデルへ」(37-53)、Hisao Tokizaki "Alliteration and the Holistic Typology of Japanese" (54-62)、西村康平「音韻バリエーションと音韻形態辞書構造」(63-73)、本間猛「形式音韻論と英語の音節構造」(74-85)
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 伸一 (Tanaka Shin-Ichi) (40262919)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	西村 康平 (Nishimura Kohei) (30588520)	青山学院大学・国際政治経済学部・准教授 (32601)	
研究分担者	上田 功 (Ueda Isao) (50176583)	名古屋外国語大学・外国語学部・教授 (33925)	
研究分担者	時崎 久夫 (Tokizaki Hisao) (20211394)	札幌大学・地域共創学群・教授 (30102)	
研究分担者	本間 猛 (Honma Takeru) (30241045)	東京都立大学・人文科学研究科・教授 (22604)	
研究分担者	太田 聡 (Ohta Satoshi) (40194162)	山口大学・人文学部・教授 (15501)	
研究分担者	田端 敏幸 (Tabata Toshiyuki) (00135237)	千葉大学・高等教育研究機構・教授 (12501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------